

ロータリー
変化をもたらす

帯広西ロータリークラブ 第2229回例会 2018.6.7 会報



■RI第2500地区テーマ■

今こそ行動を！
ークラブが元気になるために
地区が元気であるために
そして 私たちの未来のためにー



■クラブ・テーマ■

積極的に奉仕し、成長しよう

■米山記念奨学生

カリヤワサム・マジユナ・ガマゲ、
レヌカ・メニケ・カリヤワサム 様

■6月結婚祝

■親睦活動委員会

大友 広明 会員 1979.6. 1
茨木 雅敏 会員 1979.6.10
横田 幸宏 会員 1984.6. 6
中川 芳明 会員 1986.6.28
田中 耕吾 会員 1991.6.15
平田 宗利 会員 2002.6. 6
田中 利昭 会員 2004.6.13

次に結婚祝いの方ですが、この地球上の中からたった一人自分の伴侶として選んだわけでありますから他の女性に心奪われることの無いようお気を付けいただくことが老後の安心に繋がるのではないかと思います。また、女性というのは記念日ということにとっても敏感で大切にしているように思います。よって私の経験上では、スマホなどに記録して、記念日には何食わぬ顔で帰宅しサプライズディナーに誘い、そしてそれに加え花束など準備しましたらことのほか喜ぶようでございます。これが夫婦円満の秘訣となるように感じています、ご参考にさせていただきましたらと思います。

■6月誕生祝

鈴木 享 会員 1942.6.22
横山 明美 会員 1948.6.21
田中 耕吾 会員 1956.6.18
奥 敏則 会員 1959.6.23

■会長報告

■石原英樹 会長

みなさんこんにちは。

6月に入りました。残り一か月、宜しくお願いします。



この6月、自動車業界の総会等が集中し出張の多い月です。先日、公取協会の総会にて東京に行ってきました。そこら中で道路工事、ビル等の建設工事、オリンピックに向けてでしょうか？景気の良さを感じてきました。

総会・懇親会の後機会があって、新宿・ゴールデン街へ行きました。小さな飲み屋さんが無数に有り賑やかでしたが、お客のほとんどが外国の人達で異様な雰囲気でした。その後、神楽坂へ行きました。

■乾杯

■佐藤 聡 会員

御指名をいただきましたので乾杯の前に一言お話をさせていただきます。

6月生れの方の性格と致しまして、競争心が強く直情型、ポジティブで直観力に優れ冒險心が強く勝負事に優れ、負けず嫌いということなのでスポーツにむいているとのことでございます。



会 長 石原 英樹
幹 事 萱場 誠一

副会長 佐々木嘉晃
副会長 小谷 典之

会場監督理事 立崎 貴之
プログラム委員理事 北川 勝啓

発行：広報委員会
委員長 柳沢 一元 (副)河西 智子



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

日本の文化を感じる素敵な街です。メインストリートから狭い路地を入るとお洒落なお店が多くあります。いずれは外国の人にも知られるのでしょうか守っていききたい場所だと感じました。

帰りの飛行機にトラブルが発生し、機種の変更により90分遅れることになりました。JALより1,000円の食事券をもらい西クラブ得意の第一ターミナル中央のお寿司屋さんで昼食をいただきました。時間は遅れましたが、ラッキーでした。

残り3回、宜しくお願いします。

会務報告

萱場誠一 幹事

①帯広西RCスポーツ大会・年度末最終

終夜間例会開催のご案内

◇スポーツ大会

～ゴルフ～

日 時 6月28日(木)集合 午前11時30分

場 所 帯広国際CC

(東・中同時スタート折り返し)

スタート 12時5分

～パークゴルフ～

日 時 6月28日(木)集合 午前9時30分

場 所 帯広の森運動公園パークゴルフ場

スタート 午前10時

◇年度末最終夜間例会

日 時 6月28日(木)午後6時30分

場 所 北海道ホテル

次週、その次の週と各委員長、理事役員の退任挨拶を予定しております、各役員、理事の方はお休みの無いよう、またご準備のほど宜しくお願いします。



ポールハリスフェローの表彰



米田慶司 会員

鎌田裕樹 会員

ニコニコ献金 親睦活動委員会 江口文隆 会員

石原 英樹 会長

残り一ヶ月よろしくお願ひします。

大友 広明 会員



結婚記念祝いありがとうございます。結婚して四十年になりました。

茨木 雅敏 会員

今年度、地区補助金で行いましたモンゴルの子ども達への支援事業の地区への報告書の提出等がすみ、すべての事業が終わりました。ご協力ありがとうございました。2日にめっちゃハッピーなことがありましたので合わせてニコニコします。

松原 宏樹 会員

6月2日の某コンペにて準優勝させていただきました。

江口 文隆 会員

JCのじゃがいもクラブゴルフ優勝しました。前日の典俊会はパートナーに恵まれず62名中60位でした。

西藤 博行 会員

今月28日はスポーツ大会、年度末最終例会です。多くの会員の参加を宜しくお願いいたします。

ニコニコ 献金	6月7日	13,000円
	累計	556,925円 (6月7日現在)





第1回目鈴木委員が8月1日ロータリー情報について第2回目は11月9日川田会員がロータリーあれこれということで卓話頂きました。本日は田中会員による第3回目となります。

「佐藤昌介と宮脇富」^{アツシ} 田中利昭 会員



今日のお話は二人の名前がメモにあります但实际上は4人のお話しになります。札幌農学校のクラーク博士から始まり演題の佐藤昌介、宮脇富^{あつし}そして西ロータリークラブの会員であった荒井千秋へと続くお話になります。

クラークの精神が佐藤昌介をはじめ後の二人にどのように伝わったか、またはそうではなかったのかという事を検証するのが目的となります。

最初に結論を申し上げますと佐藤はクラークから直接教えを受けています。

宮脇は佐藤と約40年間ともに過ごし大学でのロータリークラブでクラークの話聞きその精神にふれています。

荒井千秋の時代の頃になるとクラークの精神を直接表現したものにはなかなか出会えませんでした。しかし帯広ロータリークラブの会員が創立25年を振り返る会合で小林信次氏（大丸倉庫）が『宮脇さんが教育して残っていたものは大きかったね、今でもあの人の精神が一貫して帯広ロータリークラブに残っているよね』

この会合は荒井千秋も同席しています。そういう訳で私は宮脇から荒井へ細い糸でも文字でなくともクラークの精神は結果的に宮脇から荒井へそして私共の帯広西ロータリークラブへと縦の糸として繋がっていると信じているのです。

《クラーク博士》

札幌では大地の開拓はもちろん、同じように生徒たちの精神の開拓をしました。8ヶ月間の中であらゆる機会にクラークの考えを伝えていきます。ここでいくつかを紹介します。

農学校の生徒募集時、入学を迷う生徒を前にクラークは北海道開拓の意義、それは富貴のためではなく目指すものは【自由】【平等】【独立】なのだと伝えていきました。

農学校の細々とした規則のあることを知りこのようなものは必要ないと思う。【私はたった一つ、ピージェントルマン（紳士たれ）でいいと思う】と進言しました。

あの有名な開校式の式辞があります。特にその中でも【…きみたちは健康を良く保ち欲望と情欲とを制御し従順と勤勉の習慣を…至々】に関する部分は後世に名を成す1期生がクラークから受けた言葉として大きな影響があったと述べています。

その他にも名高い【イエスを信じるものの契約】



労働を巡る『権利と義務』の考え方、クラークは8ヶ月の間にこうした精神をあらゆる機会に伝えていきます。

《佐藤昌介》

安政3年12月21日生 1856年、南部藩花巻市生まれ

クラークから後に札幌ロータリークラブの創立後も長く会長をつとめガバナーとなる。そして農学校の一期生です。第一期の青年部31年間はクラーク博士に接し学問を学び北海道開拓への決意を固めます。そのためにもアメリカの進んだ農業を視察に行きます。開拓の基礎となる土地区分の利用の制度、農学、農業経済全般と幅広く勉強をします。このことから佐藤は帰国後に開拓長官を含めあらゆる分野から助言、提言を求められます。佐藤昌介は31歳から44年間、大学運営時代には、北海道開拓に対してどんなことにも真摯に向き合って進めていきました。後世の人からは北大を守り育てた大学の父と呼ばれたり、『北海道開拓の人』とも言われています。1930年昭和5年に大学総長を退任してロータリークラブと関係した1930（昭和5年）から1939（昭和14年）の10年間、札幌ロータリークラブでは長い間ロータリークラブ会長を続け日本ではSコミッショナーを含め8番目のガバナーを務めました。佐藤昌介はクラークに最も可愛がられた一期生といわれクラークの教えの精神を十二分に受け継いだ人でもありました。

《宮脇 富》

クラークの愛弟子の佐藤昌介にほぼ40年間師弟として交流したのが宮脇富です。1883（明治6年）島根県出身です。この人のロータリー活動には札幌、帯広、東京と各時代があります。今日は帯広時代について話したいと思います。宮脇富が帯広獣医校長に赴任してきたのが1941（昭和16年）4月の開校式の少し前と思われます。このとき帯広ロータリークラブはその後『帯広木曜会』と称され1941（昭和16年）1月30日で中止になっています。宮脇が札幌ロータリークラブ時代に身につけたロータリーのすべては行き場を失います。この空白が実に10年間続きました。帯広ロータリークラブの再開は1950（昭和25年）12月19日です。宮脇はここから2年半で札幌ロータリークラブへ移り1953（昭和28年）から1954（昭和29年）のガバナーになります。あの10年間の空白があったことにより宮脇富というきわめて稀なロータリアンを得て帯広ロータリークラブは大きな発展があったのではないかと思います。宮脇の60地区前任ガバナーは戦後初、順番に、手島知伸、星野行則、小林雅一、そして宮脇富であります。

最後に帯広西ロータリークラブの荒井千秋、1913（大正3年）生れです。佐藤から宮脇に伝えられたクラークの精神は同時代の帯広西ロータリーの会員として接した唯一の会員が荒井千秋です。その当時の在籍は帯広ロータリークラブ時代で荒井氏帯広西ロータリークラブの入会は1952（昭和27年）10月29日です。最後になりますが、クラークの精神といわれるものはある特定の人達に伝播したのではなく、開拓を通じて広く市井の人々に時代を超えて受け継がれてきたものです。本日は3人のロータリアンを取り上げ、その内の一人が私達の帯広西ロータリークラブに縁のある荒井千秋の話をしました。